

全 議 事 録

会議名	令和2年度第2回山陽小野田市文化財審議会
開催日時	令和3年2月26日（金） 10時から11時
開催場所	中央図書館2階第1会議室
出席者	徳重壽美雄委員、磯部吉秀委員、内田陽三委員
欠席者	嶋田紀和委員、松永保美委員、瀬口哲義委員
事務局	舩林康則（社会教育課課長）・若山さやか（歴史民俗資料館館長） 池田哲也（社会教育課課長補佐）・安藤知恵（文化財係長） 末富あすみ（文化財係）

- 1 開会のことば
- 2 社会教育課長あいさつ
- 3 議題

（1）山陽小野田市未指定文化財について

会長代理（副会長）→以下会長とする。

事務局： ご説明いたします。委員の皆様には事前に未指定文化財の一覧表を送付し、ご意見をいただきました。お忙しい中ありがとうございました。後ほど各委員様より意見の発表をお願いいたします。今回の未指定文化財について議題にあげさせていただいた経緯を申し上げます。お手元のパンフレットをご覧ください。山口県が令和2年3月に山口県文化財保存活用大綱を策定し、各市町はそれを勘案した文化財保存活用地域計画を策定することが求められています。この計画は多様な文化財を俯瞰し、総合的・一体的に保存・活用することにより、地域の特徴をいかした地域振興に資するとともに、確実な文化財の継承に繋げるものです。本市でも策定に向けての準備として、まずは指定・未指定にかかわらず文化財の調査が必要となります。そのステップとしてまず山陽小野田市が合併する前の、小野田市、山陽町当時の文化財審議会で審議をされていた文化財を今回の一覧表にまとめました。1件ずつ簡単にご説明いたします。

（一覧表説明）

会 長：事務局からの説明が終わりました。ここから委員より意見ををお願いします。

委 員：津布田海岸の地層を見に行ってみました。ここに石炭の層が露出しています。

宇部、山陽小野田は炭田を持っていたので、露出しています。古い地層は中世代、今から2億2千万年前の地層であろうといわれています。地層の上に波で土地が浸食された石がのっており、砂浜でもあるが礫岩がのっている。押し固められた岩石が地層のようにみえています。道路からあぜ道を通っていくので、行きにくいです。山口県は色んな地質的に特徴のところもあります。山陽小野田市は炭鉱もあったので面白い地質だと思います。

委員：山陽町と小野田市が合併する前から勘場屋敷は懸案事項になっています。やはりいまから500年前（350年前事務局修正）に、代官跡として建っています。開作業務にあっていた人が住んでおられた。その後に住まれておられた作花さん。歴史的に繋がっています。茅葺をトタン屋根にして置いていたが、現在のような形で放置されています。建て替えないといけないとか色々な意見がありましたが、江戸時代の前期から古い茅葺屋根と上段の間はとても貴重です。文化都市小野田としては、文化財が非常に少ないです。山口県の文化財地図をみても長門市の半分しか文化財がないです。そこから考えてもここを指定文化財にしたいと思っていましたが、現状では厳しいです。財政が困難であると思いますが、お金を掛けないにしても、高泊開作時代はこの辺りの周辺の民家も茅葺でありました。上段の間だけでも残すか私の突飛な考えかもしれませんが、茅葺だけでも良いですし、そこで小さなイベントをすとか、顕彰碑だけではとても残念です。

会長：私も地元ですが、今子供たちが勘場屋敷、浜五挺唐樋をよく知っています。現地に行き色んな方から話を聞くことで認知もされて、地域の宝という気持ちが沸いてきています。

委員：この周辺には硫酸瓶で塀を作っている場所も残っています。

会長：それぞれ文化的価値を持っているものですので、これからタイムスケジュール等が出て今後の道筋が示されると思います。

会長：本日欠席されている委員からの意見を事務局から説明をお願いします。

事務局：（2名委員の意見を発表）

近代化産業遺産を中心にご意見をいただいています。且地域には登り窯、瓶垣など窯業に関連する史跡が残されています。それらの繋がりが分かるとより一層興味が沸くのではないかと。またセメント関連、日産化学の史跡など文化的価値があり、もっと活用に向けて取り組みをすべきではないかと。泥瀝し場、バック・オロの周辺は、所有者の方が環境整備をされてとても見やすくなっており、委員の皆さまもお近くに行かれた際にはお立ち寄りください。その他の文化財の意見としては、市民の方にもっと知ってもらう方法を考える必要があるとのご意見です。もう一方からのご意見です。旧小野田銀行について、山口銀行小野田支店の建て替え、移転の話がでていようようです。現在旧小野田銀行も倉庫として使用していないとも聞いています。セメント関連施設として、保存活用を考えるようにアクションを起こしてほしいとのご意見でした。

会長：県が大綱を策定し、今後それを受けてこうしなければならないとか、いつまでに市で作らなければならないとかがありますか。

事務局：具体的なスケジュールまでは至っておりません。今回お示ししたような形で、まずは文化的価値があるものについてブラッシュアップをさせていただき、それらをもとに今後どのように進めていくかというのを審議会でも諮らせていただきながら具体的にプランを作っていくという形です。現在は現状把握、調査の段階です。

会 長：今後の審議会は、そういった話が主に出てくるようになるのですか。

事務局：おそらくそのような基礎調査に対するご意見をいただきながら、プラスふるさと文化遺産も今後登録予定ですので、それらの審議もあわせてしていただきたいと思います。

会 長：これからそれぞれ審議会でも話題に出てくると思いますので、それまでに現地を興味深く見ていきたいと思います。

続きまして事務局から報告をお願いします。

事務局：山陽小野田市ふるさと文化遺産「山陽道」登録後の活用について、ご報告いたします。新たに登録しました山陽道を活用して、各公民館で講演会を行ってまいりました。山陽道に関連する公民館（厚狭、出合、埴生、厚陽）で各地域で内容を変えて行いました。160名の参加でした。これら講演会をまとめる形で市民館で講演会を行いました。120名の参加でした。また埴生中学校では出前授業で、埴生中学校1年生を対象に、生徒が大階段に座って、白い壁にプロジェクターを投影して授業を行いました。学校教育課との連携事業として、新人教員2年目の方を対象に1000日プラン研修を行いました。小中学校教員に市内の各地を廻り山陽道やその他の文化財を紹介してフィールドワークを通して知っていただくという機会を設けました。

会 長：登録をしてすぐに活用をされて、とても良い取り組みです。

続きまして歴史民俗資料館の活動報告についてをお願いします。

事務局：今年度新型コロナ感染症対策のため、3つの企画展と講演会が中止になりました。中止になった企画展は来年度実施予定です。5月にふるさと文化遺産登録記念「山陽道」が登録されたのを受け、山陽道の展示を行い、宿場町厚狭の歴史をはじめ、山陽道に関わりをもつ市内の村々の歴史も古文書などを用いながら紹介しました。たくさんの方にお越しいただきたいという思いから、企画展前に各公民館で講演会を開催してまいりました。

現在は、企画展「人々と寺社」を開催しております。豊富な資料を集めることができ、また、身近な内容ということもあり、皆さま時間をかけてご覧になっています。その他活動として、一覧表を付けていますが、学校関係では、コロナで見学に来ることができなかった学校の希望で出前講座を行いました。また、初の試みとして夏休みイベントで昔の道具を実際に触るなどの体験教室と、小学校での巡回展示も今年度から始め、試行錯誤でしたが、授業に活用していただいで、子どもたちの学習意欲も高まったという感想もいただいでいますので今後も続けていきたいと思います。

会 長：委員の皆さん、ご質問などございませんか。

委 員：コロナ禍においても入館者数はあまりかわっていませんが。

事務局：山口ゆめ回廊のスタンプラリーでかなりお客様が来られて、館内にも入っていただき見ていただくことができました。

スタンプラリーは県央7市町が連携した事業で、地域の謎解きをしてスタンプを

集めて回るというイベントで、資料館はスタンプを押す場所に設定していただきました。その効果もあって、県内各地から来てもらって、山陽小野田市が初めてで、資料館も初めて来たという方も多かったです。コロナ禍ではありましたが、令和2年度入館者数は昨年比べて増えています。

委員：初めから歴史が好きで、本を読むことが好きな子供もいますが、とっかかりがあると入口が違うにしても、面白いなということに気付く。広域で取り組みをすることは大切なことです。文化財の繋がり、山陽道はまさにそうですが、繋がりが見えてきて他市から来られた方が、自分の市とどう繋がっているかとか分かるが良いです。手法としてはどうかともありますが、入口、間口を色々と設定するのは大事なことだと思います。

会長：学校からは小学校3年生が昔の生活の勉強で資料館に来ますが、出前授業も対象はそのぐらいですか。

事務局：学校からの希望は小学3年生です。見学に来るときは昔の道具の説明だけですが、出前授業の時はプロジェクターを使って、市の成り立ちや学校の希望で笠井順八の話など交えて授業をしています。

会長：学校に行くと資料館の負担は大きいかもしれませんが、良い取り組みだと思いますので、これからも続けていってください。

事務局：出前授業をしたら、その週末には親子で資料館を訪れてくれる方も多いです。

会長：その中から何人かでも山陽小野田市のために何かしようという子供が出てきてくれたらとても良いことです。

最後にその何を事務局からお願いします。

事務局：お知らせです。思い出図書館 in 山下記念館です。山下記念館は旧厚狭図書館で、以前の厚狭小学校の隣接地にございました。昭和7年に石束の山下美代蔵さんの息子さんが陸軍にいらっしゃって殉職をされて、国から御下賜金6,200円をもらわれて、その全額を厚狭町に寄付をされ、町が「山下記念町立厚狭図書館」として昭和8年に開館をいたしました。山下記念館では当時多くの学生が学び巣立っていかれたと聞いております。昭和46年にすぐ横に山陽新幹線の開通に伴い厚狭小学校が移転し、あわせて厚狭図書館も昭和47年に移転をして閉館となり、その後資料館として使われる予定でしたが、公開はされずひっそりとその場に建っていました。この度山下記念館を皆さんに知っていただく機会を設けましたのは、市で公共施設の個別施設計画がございまして、建設から80年以上経過をし、安全性も確保されていない状況であるため、解体の方向性で結論を出しております。そういった中で、これだけ長い間地域に建ち続けた建物でありますので、今一度ここに光をあて皆さんに図書館を知っていただきたいという思いで、企画をさせていただきました。教育委員会だけではなかなか出来ない企画でしたので、厚狭にありますまちづくり団体の厚狭杜のまちの皆さまの協力と、地元自治会の皆様にも館内清掃を手伝っていただき、地域と一緒に取り組んでいます。昔の懐かしい風景・人・物に触れていただければと思います。